

11の学術研究団体への誠意ある回答・協議を求める申し入れ

北九州市長 武内和久様
北九州市教育長 田島裕美様

2024年5月30日
日本共産党北九州市会議員団
団 長 荒川 徹
副 団 長 藤沢 加代
幹 事 長 山内 涼成
政調会長 大石 正信
議 員 高橋 都
議 員 出口 成信
議 員 伊藤 淳一
議 員 永井 佑

本市においては、これまで城野遺跡など、いくつもの貴重な文化財が適正な「価値づけ」をされずに壊されており、本市の文化財保護行政そのものが大きく問われています。

初代門司駅遺構が発見されて以降、現地保存を求めるたくさんの市民・学術団体による申し入れが行われていますが、市からの回答がされていないことも明らかとなり、住民の信託にこたえていないと言わざるをえません。

武内市長は「文化芸術は言うまでもなく、人々の心や暮らしに潤いをもたらす、都市に彩りを添える、大変重要な力である」と発言しています。市長はその発言の責任を自覚し、公正かつ誠実に、今こそ遺構の保存を求める専門家・市民の声を聞くべきです。

5月21日、文化遺産に関わる11の学術研究団体（以下11学会）が合同でその価値を記し、遺構の保存を求める「初代門司駅遺構の保存を求める11学会合同要望書」を提出しました。

11学会によると初代門司駅関連遺構は、「地域史を超え、日本史、アジア史、世界史の視点から考古学、都市史、鉄道史、産業史、建築、土木などの幅広い領域に関わる特筆すべき価値がある」としています。しかし、「その価値はいまだ十分に理解を得られているとはいえない」と指摘しています。

今後の調査で、「遺構群が保存された暁には、日本のモデル的近代都市の誕生を示す物証として国史跡に指定される可能性や日本各地の他都市の近代交通遺構と一体的に、日本の初期鉄道遺産として世界文化遺産として推薦するに値する」とも指摘しています。

そこで本市として、要望書にもとづき、11学会と初代門司駅遺構の保存について協議の場を持つことを申し入れます。

記

- 11学会による要望書への誠意ある回答を確実に行うこと。回答内容については、公開する事。
- 2024年6月定例会開会前までに11学会との協議の場を持つこと。

以上申し入れます。